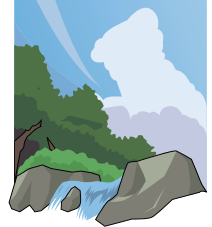


ふるさと探訪

第15回

へきがんとうすいろ
劈巖透水路



丹原町来見に、岩壁をのみで削って作られた農業用水路があります。劈巖透水路と呼ばれ、安永9（1780）年



▲劈巖透水路



◀劈巖透水路の碑

以来見村の庄屋越智喜三左衛門によって起工されました。自ら私財をなげうち、のみを握り鋤を振るい9年の歳月をかけて、寛政元（1789）年に長さ約22畧の井堰と約36畧の隧道、約138畧の岩石打割水路を完成させたと伝えられています。

その後、明治に入り子孫の越智茂登太によって隧道約9畧、水路約108畧が増築され、現在の形になりました。

水田開拓への強い思いと先人の汗と苦労が偲ばれるこの水路

は、菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で出てくる青の洞門になぞらえて、「伊予の青の洞門」と呼ばれています。

丹原町内には、この他にも、志川の掘抜隧道、関屋の切抜水道（すべて江戸時代に竣工）などがあり、劈巖透水路と志川掘抜隧道は市指定の史跡となっています。

■住所 丹原町来見
■駐車場 なし

